

平成 29 年 3 月 27 日 作成 原田 寛之
平成 29 年 4 月 20 日 修正 原田 寛之

日本物理学会第 72 回年次大会インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会総会) 議事録 (案)

日時 : 2017 年 3 月 18 日 (土) 17:45~19:10

会場 : 大阪大学 豊中キャンパス 基礎工学部講義棟 A403 号室(K42)

出席者 (順不同・敬称略) : 25 名

羽島 良一、川瀬 啓悟、柏木 茂、石田 孝司、境 武志、保坂 将人、山本 尚人、栗木 雅夫、坂上 和之、井上 峻介、神田 浩樹、全 炳俊、神門 正城、中新 信彦、荻野 純平、吉本 政弘、岩下 芳久、宮本 篤、加藤 新一、林 直樹、鷺尾 方一、今城 想平、近藤 康太郎、今 亮、原田 寛之

司会 : 今 亮

書記 : 原田 寛之、井上 峻介

配布資料 :

2017S-1 : 前回議事録

2017S-2 : ビーム物理研究会 2016/若手の会 プログラム

2017S-3 : ビーム物理研究会・若手の会の組織化について

議事内容 :

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - 2-1. 日本物理学会ビーム物理領域関連
 - 2-2. ビーム物理研究会関連
 - 2-3. 日本加速器学会関連
3. その他
 - 3-1. ビーム物理研究会・宛先不明者リストについて (KEK・山本氏)
 - 3-2. ビーム物理研究会・若手の会の組織化について (JAEA・原田氏)
 - 3-3. 次回の総会・世話人会

1. 前回議事録確認 (資料 2017S-1)

2016年8月10日に開催された第13回日本加速器学会年会インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会世話人会)の議事録(配布資料:2017S-1)について内容確認が行われた。時間的な制約から内容の読み合わせは省略されたが、意見・コメントはなく、承認された。

2. 報告・審議事項

2-1. 日本物理学会ビーム領域関連

[大会関連]

前回の年次大会について

次回2018年次大会に向けて、前2016年次大会と今2017年次大会の講演数、過去12年間における春の物理学会での一般講演数の推移、2017年次大会における他領域との講演数の比較、講演者の所属機関別内訳、他領域との合同セッション発表件数の内訳、招待・企画・シンポジウム講演が前回総会資料より引用され報告された。前2016年次大会では127件(合同セッションを除くと80件)、今2017年次大会では107件(合同セッションを除くと100件)の講演件数であったこと報告された。領域代表の佐々木 茂美氏(広大)より各機関代表宛の発表数増の依頼メールあった。今後も各機関において関係者による講演依頼を行うことが推奨された。原田 寛之氏(JAEA/J-PARC)より、KEKつくばキャンパス側やJASRI等の大型機関の発表件数が少なく、積極的に講演依頼を行っていくことで発表数の増加が見込めるのではないかと指摘があった。会合後、坂上 和之氏(早大)より今回の集計手法と例年とで違いがあるのではないかと指摘があったため、後日集計方法も含め確認し、次回の2017年加速器学会年次大会での世話人会にて報告する。

他領域との合同セッションについて

2017年次大会では42件(ビーム物理の寄与:26件、6つの合同セッション:SuperKEKB・BelleII・ILC、J-PARC 加速器・測定器技術、高強度レーザー・FEL・放射光、レーザー・プラズマ加速、イオントラップ・非中性プラズマ・レーザー冷却、ミューオン・中性子・陽子)の講演件数であったことが報告された。

<合同セッション>

✓ SuperKEKB・BelleII・ILC	(前回:4件 ⇒ 今回:0件)
✓ J-PARC 加速器・測定器技術	(前回:10件 ⇒ 今回:8件)
✓ 高強度レーザー・FEL・放射光	(前回:4件 ⇒ 今回:0件)
✓ レーザー・プラズマ加速	(前回:16件 ⇒ 今回:22件)
✓ イオントラップ・非中性プラズマ・レーザー冷却	(前回:8件 ⇒ 今回:6件)
✓ ミューオン・中性子・陽子	(前回:20件 ⇒ 今回:6件)
合計	(前回:62件 ⇒ 今回:42件)

招待・企画講演について

2016年次大会では1件の企画講演(素粒子実験領域主催、ビーム物理共催)を実施、2017年次大会でも1件の企画講演(実験核物理領域主催、ビーム物理共催)を実施した(以上に若手奨励

賞受賞記念講演を含まず) ことが報告された。

シンポジウム講演について

2017 年次大会では主催 1 件と共催 2 件を実施したことが報告された。

<コメント>

- ✓ 次期領域代表の羽島 良一氏(量研機構)より、プログラム委員会に参加した際、「魅力的なシンポジウム・招待講演」のあるプログラムを編成することの重要性について、再認識させられた。より多くのシンポジウム提案を積極的に作るべきであり、ビーム物理研究会から積極的な提案を募りたい。例年、募集締め切り近くの周知メールを行っており短期間での作業のため、7月くらいの早い時期にシンポジウム講演企画案があった方がよい。
- ✓ 加速器学会・編集幹事の栗木 雅夫氏(広大・先端研)より、前回の年次大会から加速器学会誌の特集記事のテーマを転用する形でシンポジウム講演企画を提案しており、今回も同様に行った。今後も毎年シンポジウム講演企画を提案し、貢献したい。

若手奨励賞について

若手奨励賞の受賞者講演を素粒子実験領域が主催となり合同開催している。2017 年次大会では、今城 想平氏(京大、現:名大)が受賞した事が報告された。来年度の応募締切は今年度と同じく 7 月 31 日を予定している。

<コメント>

- ✓ 次期領域代表の羽島 良一氏(量研機構)より、毎年応募件数が少ない状態が続いており、投稿論文に加え博士論文も審査対象であるので積極的な応募をお願いしたい。
- ✓ 次期領域副代表の鷲尾 方一氏(早大)より、他領域は一次選考・二次選考があり、選考に非常に苦勞するぐらい質が高く応募数も多い。

次回大会(秋季大会)までのスケジュール

主なスケジュールが確認された。次回の秋季大会は、「素核宇」が 2016 年 9 月 12 日から 15 日まで宇都宮大学・峰キャンパスで開催され、「物性」が 9 月 21 日から 24 日まで岩手大学で開催される。秋季大会ではビーム物理領域の一般講演は開催されないが、シンポジウム・企画講演等の他領域との合同開催は可能であるので、提案があれば領域運営委員までご連絡ください。次期秋季大会の重要な申し込み日程は以下である。

<次回、秋季大会の日程>

- ✓ 招待, 企画, チュートリアル, シンポジウム講演企画 申込期間:
2017 年 4 月 3 日(月)~4 月 21 日(金)
- ✓ 一般講演 申込期間: 2017 年 4 月 28 日(金)~5 月 22 日(月)

次回の年次大会は、2018 年 3 月 22 日から 25 日まで東京理科大学・野田キャンパスで開催。

日本物理学会 学生優秀発表賞について

日本物理学会大会における若手の優秀な発表を奨励し、日本物理学会をより活性するために学

生優秀発表賞を設ける予定であり、設立の経緯や実施要項に関して、次期領域代表の羽島 良一氏（量研機構）より説明があった。説明後、総会参加者に対してビーム物理領域でも賞を設けることに関する是非を問い、了承された。

<説明>

日本物理学会では、今まで各領域で様々な基準の下、学生優秀発表賞が出されていた。名称に関しても、日本物理学会の冠が付いている領域から、独自の名称の領域まで多岐にわたっていた。そのため、日本物理学会の冠を名称に付け、統一的な要項や名称を定め、実施するのが良いのではという議論が委員会内で進んでいる。ビーム物理領域としては、秋のビーム物理研究会で若手口頭発表賞を設けた実績があるが、日本物理学会では出していない。しかし、賞を設けることで講演件数の増加等の活性化にもつながるため、ビーム物理領域でも賞を設ける検討を行っている。名称は、「日本物理学会学生優秀発表賞」であり、若手奨励賞とは別の賞となる。対象は、学会発表のうち口頭発表またはポスター発表となる。受賞者は講演の登壇者のみで、対象者は正会員のうち大学院生または学生会員に限る。受賞候補者の決定後すみやかに、領域代表は審査の経緯と結論を理事会に文書で報告しなければならない。理事会では選出された受賞候補者を審議し、受賞者を確定する。

<コメント>

- ✓ 理事会の承認を経て確定とあるが、学会の会期中に賞を与えることはできないのか？3月の学会後に卒業してしまう学生は受け取れない可能性が出てしまうのではないかと？
⇒ 難しいと思うが賞を発表する時期については今後の検討課題である。

<結論>

ビーム物理領域としても「日本物理学会学生優秀発表賞」を設ける。

[領域運営関連]

執行部と事務局の確認

領域ならびに研究会の次期執行部の確認が行われた。領域ならびに研究会の現執行部は今年度が任期の最終年度であるため、次年度から以下の執行部体制となる。任期は2017年4月から2019年3月までである。

<ビーム物理研究会>

会長 : 羽島 良一氏 (量研機構)

副会長 : 鷲尾 方一氏 (早稲田大)・佐々木 茂美氏 (広大)

<ビーム物理領域>

代表 : 羽島 良一氏 (量研機構)

副代表 : 鷲尾 方一氏 (早稲田大)

<事務局>

量子科学技術研究開発機構

茨城県那珂郡東海村白方白根 2-4

次期領域運営委員について

現領域運営委員の今 亮氏（JASRI）の後任として、近藤 康太郎氏（量研機構・関西研）が紹介され、挨拶後に承認された。任期は2017年10月から2018年9月までの1年間。現在の領域運営委員の体制は次のとおり。

任期	領域運営委員
2015/10～2016/09	井上 峻介（アドバイザー）
2016/04～2017/03	菅 晃一（現）
2016/10～2017/09	今 亮（現）
2017/04～2018/03	原田 寛之（引継ぎ中）
2017/10～2018/09	近藤 康太郎（本会で決定）

2-2. ビーム物理研究会関連 （資料 2017S-2）

[研究会関連]

ビーム物理研究会 2016/若手の会について

ビーム物理研究会 2016/若手の会は、高輝度光科学研究センター（JASRI）の主催により、2016年11月24日（木）から26日（土）（研究会：24 終日～25 午前、若手の会：25 午後～26 午前、施設見学：26 午後）の会期で開催した。ビーム物理研究会 2016/若手の会のプログラムを配布資料として報告した。ビーム物理研究会（参加者：37名）では口頭発表9件・招待講演3件が行われ、若手の会（参加者：34名）では口頭発表8件・ポスター発表15件・レクチャ1件が行われた。

次回、ビーム物理研究会 2017/若手の会は、名古屋大学 分子科学研究所の主催にて開催予定である。

2-3. 日本加速器学会関連

第14回日本加速器学会年会のお知らせ

会期：2017年8月1日（火）～8月3日（木）

（見学会：2017年7月31日（月））

会場：北海道大学（北海道札幌市）

発表申込期限：2017年5月15日まで

参加申込期間：2017年7月24日まで

プロシーディングス提出締め切り：2017年7月25日まで

備考：会期中にビーム物理研究会世話人会を開催予定

3. その他

3-1. ビーム物理研究会・宛先不明者リストについて

藤田 貴弘氏（JASRI）が集計した宛先不明者リストに関して、山本 尚人氏（KEK）より参加者に報告があった。卒業・修了等による離脱に加え、所属変更時の連絡手続き不備による宛先不明者が多く含まれていた。研究会メーリングリストにてリストを公開し、現在の所属と宛先を把握している方から当事者らに連絡をするという提案が栗木 雅夫氏（広大・先端研）からなされ、担当を

決めずメンバー全員で対応することが決まった。

3-2. ビーム物理研究会・若手の会の組織化について

原田 寛之氏(JAEA/J-PARC)より、ビーム物理研究会・若手の会の組織化について説明があった。半年前から組織化に関する議論を行っているメンバーは、坂上 和之氏(早大)、山本 尚人氏(KEK)、菅 晃一氏(阪大)、今 亮氏(JASRI)、井上 峻介氏(京大)、原田 寛之氏(JAEA/J-PARC)の6名である。

<説明>

「ビーム物理研究会」ならびに「日本物理学会ビーム物理領域」の活性化を目的とした、ビーム物理研究会・若手の会の組織化を提案したい。また、組織化のきっかけとなった「日本学術会議・若手科学者ネットワークへの参加」に関しても議論をしたい。背景として、日本加速器学会の母体の一つであるにも関わらず、ビーム物理研究会の認知度が低く、現在積極的な勧誘を行っていない。また、加速器学会での発表で満足しており、日本物理学会ビーム物理領域で発表するメリットを感じていない方が多い印象を持っている。次に、日本学術会議・若手科学者ネットワークにおいて、ビーム物理は幅広い分野に貢献しており共感が得やすくアピールしやすいと考える。うまく活用できれば「ビーム物理研究会」ならびに「ビーム物理領域」にとって有益となると考えられる。しかし、ビーム物理領域の領域運営委員を割り充てることとなったが、運営委員の任期と同じく半年毎に代表を交代してしまえばネットワーク内の立ち位置が中途半端になってしまう恐れがある。現在のネットワーク登録者は、今 亮氏(JASRI)と原田 寛之氏(JAEA/J-PARC)の2名である。加えて、ネットワーク設立の目的である若手科学者の意見集約に関しても、現在集約できる組織やメーリングリストが存在していない。また、このネットワーク参加を契機に実際に若手の会を設立した国内の学術団体が多い。以上の目的や背景より、ビーム物理研究会・若手の会の組織化の必要性があると考えている。まず、若手の会への登録を簡素化させ、ビーム物理という概念に少しでも関係する45歳以下(ネットワークの基準)の全ての若手研究者や学生を積極的に勧誘・登録し、意見を集約し国の政策等への提言に反映できるようにする。そして、若手の会からビーム研究会本会への入会、若手研究者のビーム物理領域での登壇数の増加に繋がせたいと考えている。本総会で様々なご意見をいただきたい。

<コメント・議論>

- ✓ 素粒子・原子核の若手の会は、ネットワークに入っているのか？
⇒ 登録名簿が配布されていないのでわからないが、数人に聞いた限り入っていない。
- ✓ ネットワークのアンニュアルレポートはどのような内容か？
⇒ 年次ごとの活動実績を報告しているようである。
- ✓ 領域運営委員の交代状況は？
⇒ 一年任期で2名登録されており、半年毎交代している。
- ✓ 本会と同じ活動内容になるのでは？
⇒ 本会と同じ趣旨・目的・活動内容になるが、違いは年齢制限、入会の敷居を下げ積極的な勧誘、若手研究者の登録者を増やしたい。
- ✓ 年1回行っているビーム物理研究会・若手の会をアンニュアルレポートの活動内容として報

告できるのでは？

⇒ 十分な実績として報告できるとは思う。

- ✓ 若手からの積極的な勧誘、若手による運営は重要であり、組織化は非常に良いと思う。本会も若手から盛り上がっていくと思うので賛成である。
- ✓ 研究会自体は、現在と同様に本会と若手の会を一緒にやれば良いと思う。
 - ⇒ そのとおりだと思う。わざわざ分けるのではなく、若手の発表を年長者の方に聞いてもらえる場としても一緒にやるべきだと思う。
 - ⇒ 組織化するのはある意味簡単かもしれないが、継続的な運営が大変だと思う。
 - ⇒ 若手が継続的にどんどん参加して活発的な運営になっていくと良い。
- ✓ 研究会本会に入会しないが、若手の会に入会することはありなのか？
 - ⇒ 理由はどうであれ、若手の会に入会することで本会を認識し、本会への入会を促せると考えている。認識していなければ入会もないので、そういう意味でも若手の会は良い方向になると思う。
- ✓ 日本物理学会の会員になる必要があるのか？
 - ⇒ 必要はない。日本物理学会ビーム物理領域での講演数を増加させたいが、年会費等の敷居が高い印象がある。まずは敷居を低くし、若手の会への入会を促し、その後本会への入会、日本物理学会への入会、講演登録という流れが理想的である。
- ✓ 若手科学者や学生の立場・意見は非常に重要で、日本学術会議・若手科学者ネットワークでの活動は大事だと思う。ネットワークの登録者は、2年くらいは窓口としてやっていただくのが良いと思う。本総会で決定してはどうか？
- ✓ 半年毎の交代ではなく2年くらいはやるのが良いと思う。45歳以下であり、現在登録している原田 寛之氏(JAEA/J-PARC)が当面やるのが良いのではないかと？
- ✓ 若手ネットワークは45歳以下となっているが、若手の会の年齢制限はあるのか？
 - ⇒ 合わせる必要はないが、45歳以下という制限があることで、本会への入会を促すことができる。
 - ⇒ 45歳を超えたら本会の方で力を発揮するのが良いと思う。
- ✓ 本会と若手の会でメーリングリストを区別する必要があるのでは？若手研究者や学生が一番欲している公募情報などは同じものが流れるだけでは？
 - ⇒ 本会に入会しメーリングリストに登録している若手研究者や学生が少ない。
 - ⇒ 同じ情報だけを流す事はなるべくせず、若手に向けて必要な情報発信などはしていきたいと思う。
 - ⇒ 最終的には、採用側(大学・機関や企業等)にとっても公募発信の良い場になればと思う。
- ✓ 本会と若手の会を区別すると、本会の方が崩壊してしまうのではと危惧している。区別しない方が良いのではないかと？
 - ⇒ 本会の冠を持ち、意向に沿い、本会を活性化するための若手の会である。若手の会への入会から本会への入会に繋がると思う。
- ✓ 大型施設の方々はビーム物理の「物理」というのに拒否反応を示している場合がある。
- ✓ 若手の会への入会に関して、積極的な勧誘は良いとは思いますが、敷居を下げ過ぎて、どこの誰

かはわかるようにしておかないと誰でも入会してしまうと思う。会員の紹介はあった方が
良いと思う。

- ✓ いたずら目的で架空の人が入会しないとは限らないから、ある程度は制限をすべきだと思う。退会させることができる仕組みもあればよい。
- ✓ 学生は一年ごとに一割くらいしか残らないと思う。
- ✓ 指導教官によって、退会できる仕組みがある方がよい。
- ✓ 最初に自動退会など仕組みを作るべき。
- ✓ あまり若手だけで決定することは想像できないが、組織化するというのは若手の会だけである程度自由に決められるものだと認識している。
- ✓ 現在は、総会・世話人会での承認が必要となるが、組織化で承認ではなく報告をするという形になると思う。
- ✓ 若手だけの企画を本会が制限することはないはずである。独自に勉強会をやる、加速器学会に若手セッションの構築の提案など、どんどん若手がやる気になる話にした方がよい。
- ✓ 若手の会の立ち上げは、議論している6名で立ち上げればよいと思う。
- ✓ 立ち上げ時期は、今日でいいのでは？
⇒ 今回議題として挙がり、議事録として残し、様々な意見をいただき、組織化の準備を進めていきたい。そして、次回の加速器学会で行う世話人会で承認を得る形が良いと思う。
- ✓ 若手科学者ネットワークには、もう登録されているのか？
⇒ もうすでに登録されている。
⇒ 対外的には活動していることになっている。
⇒ 学術会議から配信されたメールを回すという役割だと当初認識していたが、アニュアルレポート(2017年4月7日締切)、若手科学者サミット(2017年6月開催予定)がすぐにある。

<結論>

- ✓ 総会にてビーム物理研究会・若手の会の組織化に関する目的・問題点・方向性を共有した。
- ✓ 日本学術会議・若手科学者ネットワークに関して、現体制である今 亮氏(JASRI)と原田 寛之氏(JAEA/J-PARC)を登録者として2年間くらい行う。
- ✓ ビーム物理研究会・若手の会の組織化に関して、体制、入会方法、活動方針などをさらに深化させ、2017年8月頃に開催される第14回日本加速器学会年会の会期中に行う世話人会における承認を目指す。

3-3. 次回の総会・世話人会

次回の総会は2018年3月22日(木)～25日(日)に開催される日本物理学会第73回年次大会(東京理科大学・野田キャンパス)の会期中に行う。世話人会は2017年8月1日(火)～3日(木)に開催される第14回日本加速器学会年会(北海道大学)の会期中に行うことが確認された。

以上